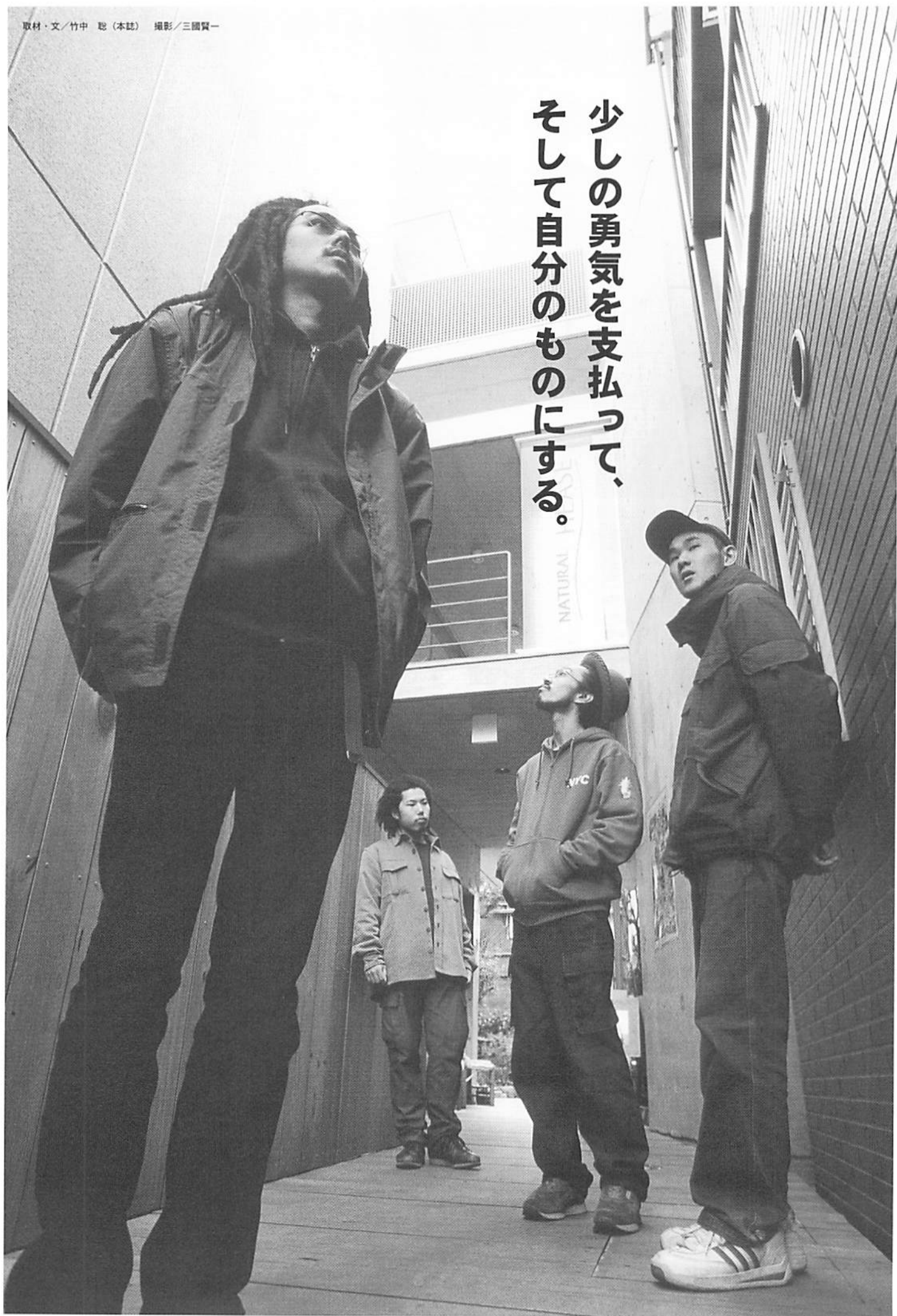


少しの勇気を支払って、  
そして自分のものにする。



## 機織りの音が満ちる、 思い出す西陣の露地。

細い露地には、その奥を見てみた  
い衝動と共に、未知の場所への躊躇  
(軽い恐怖感に近い)を伴う。昨年5  
月号の特集前に歩いた機織りの音満  
ちる西陣の露地には、異国情緒すら  
味わった。「知らない角を二つ曲がれ  
ば、それはもう旅」とかなんとかい  
う言葉があったと思う。京都の中に、  
旅は多く潜む。

さらに一年遡る5月号はセントラ  
ルスクエア特集。寺町、烏丸、四条  
御池のエリア。本誌オフィスもそ  
の中に位置し、恐らく西陣よりはよ  
く歩き、我ながら熟知しているだろ  
うと思われる。テラ・ゴコ・フヤ・  
トミミ。ストッパ・アンド・ゴーを  
繰り返す車で見るとは、歩いて気  
付くことは多い。前述の旅もまたし  
かり。露地を擁する店の数。飲食店  
には及ばないが、物販店もチラホラ。

## 何故にここに緑が？ イツツ・ アンユージュアル。

東から。御幸町はDECO IIIビル  
のオーナー杉本氏。彼もまた露地を  
リスベクトする一人。ビルの前は築  
100年からの木造建築。それは彼  
の自宅であった。「今は「庭が損」み  
たいに言われますが、京都の建築物  
というのは空間がよおけあつた苦な  
んですよ。どんな小さな家でも細い  
露地を抜けた奥には庭が必ずあつた。  
あんな街中でも驚く声が聞けたもの  
です」。時は今、ビルになり、露地は

## 「探してきてください」 徐々にお話は核心に。

満洒な棧橋風に。最奥には多少小さ  
くなつたが庭が残る。そしてベンチ。  
ぐわつと空間が開ける意外な開放感。  
南向き、日当たり良好、立派な座敷  
であつた場所を「ぜひ貸してくれ」  
と言つたのが「stricly Vibes」  
BESの河村オーナー。「喧嘩の中に  
ボツンとある遠空間。街中で、緑が  
ないはずの所に緑があつて、ついで  
うアンユージュアルな雰囲気商売  
抜きで欲しかったから。「店はどこに  
あるの？」という問い合わせは出ほ  
ど貰いますけど(笑)。街中見て回る  
のつて、みんな疲れるやろな、と。  
その中で外はスピードがあるけど、  
中はゆっくりつていうこの場所。一  
服どうぞ、と(笑)。「アンユージュ  
アル」は「昔の普通」。でも杉本氏は  
「いやもう、キーテナントは河村さん  
とこに決めてましたから」。年も違え  
ば見た目も違う。それでも家主と借  
り手の話は、少し商売を外れて進む。  
単純な賃借ではなく「哲学込み」で  
契約。これが京都の面白いところ。

少々西へ。富小路通のドゥニーム  
京都店。88年12月23日、扱う商品は  
「京都モデル」ジーンズ唯一つ。その  
分ウエスト、レングスを刻みに刻み、  
1アイテム49サイズを揃え「アナタ  
に合わないサイズはありません」「他  
の街で売れる気もありません。京都に  
付きまとう隠れ家イメージを逆手に  
取つて「ウチの店をぜひ探してくだ  
さい」。「ジーンズの歴史の古さ」と  
「京都という町の歴史の古さ」をあて

## 探しても見つける。 見つけるから愛せる。

た理屈。さらに「流行に敏感じゃない  
京都人」に「超定番アイテムのジ  
ーンズ」をあてた皮肉。なかなか  
攻撃的。斬新な店ができたものだ、  
大好きだね。そう思った。店舗デザ  
インを手掛けた間宮吉彦氏の名は、  
ドゥニーム直々のコンセプトワーク  
があればこそ。

当時既に町家に目を付け、敢えて  
空き町家を探さずガレージ跡に「町  
家風」をメインストリートを外して  
建てる。その気になれば倍は広いシ  
ョップでも出来ただろうに。トドメ  
にもはや「見つけづらい」導線、細  
い道を用意した。本誌の事務所にも  
近く、通い慣れた道でもつい見逃し  
てしまふ造りに未だにシテやられて  
いる。

現在はドゥニームのトータル・シ  
ョップになっているが、什器やアイ  
テムが増えなくても店内のこの余裕。い  
かに贅沢な店が今にしてよく解る。  
もちろん、京都モデルはここにしか  
ないことを加筆する。

さらに西へ。東洞院の、これまた  
見逃してアタリマエぐらゐの露地の  
奥に一軒。delic。棟割り町家  
の一角、民家に挟まれて店はある。  
「いやあ、ボクは本屋のオヤジみたい  
にしかできないんで」。北山からの  
移転当時、少し規模を小さくしてオ  
ープンしたての頃、オーナー小川氏  
が苦笑しながらおっしゃっていたの  
を思い出す。

内装業を営む友人が物件を見つけ

てくれて「どう？」と訊かれ飛びつ  
いた。「店に至るまでにアクセスがあ  
つて、奥に違う空間があつて、つて  
いうのがね。路面店の「見たまんま」  
つていうのはレイイスで(御幸町の  
smaier)で、やっちゃったんで。  
自分でも入りたくないと思つたぐらゐ  
のこの場所を試してみよう」と(笑)。

エリア自体は商業地区ではあるも  
の、両隣は民家。故に営業も控え  
めに。「ドヤドヤ来て貰つても、近所  
づきあいに難しい部分もある」。し、  
商業的に大成功ではないが、目論見  
は叶った。「といつてもそんなに深く  
考えたわけではないんですよ。ドゥ  
ニームさんみたたく思つてもらえれば、  
そういう美しい誤解してもらえれ  
ばすごく嬉しい(笑)。この発言は  
彼一流。勘違いのございません様。

結びに河村氏の言葉をお借りする。  
「見つけていく」ことで、「自分のも  
の」という印象が生まれる。奥ま  
つた所に「目指して行く」という状況  
が、独自のファンを生むのも事実。  
最初は何も買わずに帰った人が、次  
に来たときは何かを買つて帰り、さ  
らに来たときは何かを買つて帰り、さ  
らに来た人数も一人が二人になつて  
いる。客が客を呼ぶ効果とコミュニ  
ケーションがよく見えるし、ありが  
たみも解る」のだと。

他者を排するかに見える露地。踏  
み込むために支払う、少しの勇氣と  
引き替えに手に入れる「自分で見  
つけた場所」。その店は、誰かに見せ  
たくなるほど愛しい場所なのだと思う。



**DELIC**  
京都市中京区東洞院通朝薬師下ル竹田町639-11  
TEL.075-213-0771  
12:00~20:00 / 第3水休



**Strictly VIBES**  
京都市中京区御幸町通西桑上ル大日町416-5 DECO IIIビルF奥  
TEL.075-212-0719  
12:00~20:00 / 無休



**DENIME 京都店**  
京都市中京区西小路通朝薬師下ル高宮町576-1  
TEL.075-257-2601  
11:00~20:00 / 無休